

緑ネット通信 No.54

緑のネットワーク・まつど

代 表：川上将夫
年 費：1000 円
口座番号：00170-9-696174
連 絡 先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

特集

根木内歴史公園 de たんぼ体験

根っ子の会 三嶋 秀恒

公園は、「歴史とみどりと水の調和」をテーマにしており、2006年4月に開園しました。市民活動の皆さんの協力により開講された「根木内歴史公園ボランティア体験講座」の受講生で「根っ子の会」を設立し、7月から活動を開始し、10年になります。公園づくりは開園した時がスタートであり、「公園をどのように保全し、育て、利用していくか」という課題をもち、行政を交えて会員間で話し合いを重ねてきました。最初に「公園の未来図づくり」に取り組みました。この公園には、歴史遺産、緑の拠点、市民の憩いと学習の場など、さまざまな顔があり、トンボやカエルが生息し、野鳥が飛来する自然豊かな公園にすることを望んで手入れ活動をしています。

根っ子の会が継続して活動することにより、市民の皆さんに「豊かな自然を楽しめる場」「訪ねて良い公園、再来したい公園」と思っただけのことを望んでおり、来園者の増加に努めてきました。

イベントは、夏休み期間に家族と子どもたちを対象にした「虫ハカセになろう!」、8月に「夏休み工作教室」を開催。各種イベントの写真報告は園内の掲示板に貼付し、根っ子の会HPに掲載をして皆さんに閲覧いただいています。

公園の湿地は昭和30年代まで稲作をしていましたが、



40年代になると稲作をやらなくなってヨシ原になってしまいました。「湿地の保全と回復」を合言葉に2009年からたんぼを計画し、地表からの掘り下げ作業は重労働でした。水田上部は荒搔きと土を細かく砕き土の表面を均平にする代搔きを行って、翌年に田植えができるようになりました。水田は水の管理が重要で公園緑地課にお願いをして、地下水の汲み上げを設備してもらい、稲作ができるようになりました。田植え体験はちびっ子たちがたくさん来て泥んこになり、その後にお餅つき体験をして、美味しく食べています。田植えから80日で出穂、40日後に稲刈り、竹でハザ掛けを造って天日干し、2週間後に足踏みの脱穀機と唐箕を使って脱穀、その後乾燥作業をしてから粃摺りを行い、市場の精米機で10kgの袋詰めになります。

品種はマンゲツモチ。お米一粒一粒が丸く、粘りが強く、お餅にも美味しい品種。天皇陛下も、春の恒例行事で皇居の苗代にこれの種もみを撒かれ、田植えや稲刈りも陛下自ら行い、秋に収穫した米は11月の新嘗祭など皇室神事の供物としても使われているものです。

公園の稲作は2010年に始まり今年で7年目、収量は約50kgです。フジの花が咲き、ザリガニ捕りも楽しめる5月に田植えとお餅つきをします。お餅つきは12月にも行い、子どもたちや家族連れの方が大勢来られて毎年盛況です。

今年は5月15日に田植え体験、10月に稲刈りと脱穀、11月に粃摺りをして、12月4日にお餅つき・お楽しみイベントを予定しています。



稲刈り



脱穀

寄稿

森の音楽会ってステキですね 一起の会 佐竹 道の

囲いやまの森では整備が始まり全体の様子が見えてきた頃、子どもたちに森で遊んで欲しいと、一起の会と囲いやま森の会の共催で親子向けの「森の楽校」を実施しました。そしてもっと地域の人たちが気軽に森に入り、森を知ってもらおう機会を作りたいと思い、オカリナ演奏のグループに里やま応援団の活動を話し、森での音楽会をお願いしてみました。すると快く引き受けてくださり、それから始まったのが「森で楽しむ音楽会」です。

2年目からはオカリナのグループも参加して下さり、木と土で作られた楽器が森で音色を響かせています。時には小鳥たちの声も加わり、頭上には落ち葉が舞い踊ります。気持ちの良い森を感じながら楽しんでいただく音楽会。森に入ってもらえる良いチャンスになっています。

10年目の今年は10月2日(日)前日の雨も上がった穏やかな晴れの日に行われました。野外の音楽会で一番気になるのが天気や開催時期の事。夏の暑さも過ぎ蚊の襲撃の収まる時期を考えて長袖がちょうど良いところに実施していましたが、それでは演奏者に不都合でした。オカリナは外気温に左右され冷たくなると音に影響が出るとのお話。予想もしないご苦労がありました。陽射のある温かいうちに終われる時間が日程調整の大切なポイントになりました。

2時間弱の演奏会、休憩時間には座り慣れない丸太のベンチから身体を解放し、温かい飲み物で一息つきながらお喋りと森の雰囲気を感じて欲しいと、育苗圃の紹介も兼ねて、分けていただくハーブでお茶を淹れています。でも、そこにも森での悩みが。美味しいからと油断するわけには行かないのです。トイレまではちょっと距離があります。なるべく水分摂取は控えた方がいいのが(寒くなる時期は特に)外での活動時。室内の演奏会とはちょっと違った小さな悩みです。

演奏者にとっては音がちゃんと前に届いているか、それが心配だといいます。「音が拡散してしまうのでないかと思っていただけ、木に被われているので広がらないみたいね。」とちょっと安心して頂けたようです。

今年は珍しい事がありました。ウラギンシジミという蝶がなぜか寄って来るのです。ハーブティーが気になる様子でその周りに留まります。私の周りにも寄ってきて、気になる様子。そんな蝶の紹介をちょっとで



きるのも森ならではの事。嬉しい飛び入りでした。また、演奏を聴くだけでなく一緒に合唱で参加するのもこの音楽会の楽しいところ。特に今年は多くの曲が用意され、皆さんに好評でした。

音楽会への参加が森の魅力を知る一步になれば、こんな嬉しいことはありません。参加者の方からはこんな声を頂きました。「森の前は通っても中に入ることには無いのでこんなに広いとは知りませんでした。一人では森に入ることもできないので嬉しいです。」「初めて参加しました。素敵なところですね。知らないでいたのがもったいない。来年は友達を誘って押しかけて来ます。」「カレンダーに丸印をつけて、忘れないようにします。」「何年前にも参加して久しぶりです。」
・・・どうぞこの季節、森を思い出してください。



モリヒロフェスタに応援団参加 野口 功

10月8日～10日に21世紀の森と広場で開催された「松戸モリヒロフェスタ」に、松戸里やま応援団も出展し、里やま活動の展示をするとともに、会員各会の協力を得て子どもたちに竹工作の体験指導をしました。

8日は竹の箸と花の名札、9日は竹ぼっくり、10日はブーブー笛とひばり笛。8日9日は雨にたたられました、10日は若い家族がいっぱい。子どもたちは初めてのノコギリ体験に四苦八苦しなから、できあがると満面の笑み。パパやママも「よく頑張ったねえ」「自分で作ったなんてすごい」と満足そうでした。



**「関さんの森を育む会」
設立20周年記念シンポジウム
～関さんの森から未来への伝言～
武笠 紀子**

11月6日（日）秋晴れの中、記念シンポジウムが通経済大学新松戸キャンパスにて開催され、170名が集まりました。

開会挨拶の後、早速最初の特別講演「都市の緑を守る」がスタート。講師は（公財）日本生態系協会の池谷会長。経済優先でアホウドリがほぼ全滅、東京湾の干潟も激減などの事例をあげ、持続可能な国づくりへの転換が必要で関さんの森の市民活動はその実践例です、と話されました。



次は2名の会員により「育む会」の20年をプレゼン。画面を見ながら振り返りました。参加者からは「ほんとに皆さんいろいろなことを頑張ってくられたので、この森が残ったのですね」との感想がありました。



休憩後は雰囲気が変わり東葛合唱団はるかぜの合唱です。安藤由布樹氏指揮により、関さんの森が舞台のミュージカル「幸せ谷 いのちの森物語」を熱唱。

この歌は苦しかった時に森の活動を励ましてくれました。音楽の力はすごい！

最後は安藤氏、大西氏、木下氏3名によるパネルディスカッション。森を守るには地権者・市民・専門家間の信頼が極めて重要、今のライフスタイルを変える必要があり関さんの森の役割は大きい、若者が入りやすくなる工夫があるとよい、など有意義な提言がありました。



**松戸のみどり再発見ツアー39 報告
矢切の斜面林からフジバカマの里を巡る
川上 将夫**

9月25日の朝、前日まで降り続けていた雨がようやく上がり、25名の方が矢切駅に集まった。簡単な挨拶・説明の後早速元気に出発。かなり蒸し暑くなってきた。

最初の訪問地は栗山配水塔。土木遺産として指定され、80年にわたって安全な水を地域に供給してきた。

そしてすぐわきには斜面林の「栗山特別緑地保全地区」が広がる。この「特別緑地保全地区」の指定を受けると所有者は相続税評価が8割減免され、都市部の緑地を残すには極めて有効な制度となっている。



次は柳原水門。長らくこの地域で自然保護活動を行ってきた佐野さんが、特別案内人としてここより合流。併設のポンプ施設とともに、洪水時には坂川の水を江戸川に流す役割をしますとの話。

佐野さんからワンドの説明



堤防上を南下すると、旧坂川河口に到着。この付近は何故か堤防がまっすぐではなく左に大きく曲がっている。工事の際、地元で自然保護活動をしているTさんが、豊

かな生態系を保存するため河川事務所に粘り強く働きかけたため実現した。この地はワンド（河川構造物に囲まれて池のようになっている地形）と呼ばれ多様な生き物が生息している。現在ここを「フジバカマの里」として保存する活動が行われており、将来が楽しみである。



秋の七草・フジバカマ

最後は里見公園で振り返り。「堤防を曲げてワンドを残すことにつながった活動が印象にのこる」、「坂川周辺をよく歩きますが、今回堤防の話聞きとても勉強になりました」などの感想が聞かれた。またツアーを企画したスタッフにとっても、ワンドについてはじめて聞いた話もあり誠によい「再発見ツアー」となった。

緑のネットワーク情報

記事で紹介できなかった様々な活動や取り組みなど(一部予定)をご紹介します。

- 8月26日 根木内 夏休み工作
教室に40名参加
- 9月10日 Save The Green「虫探検
in 秋山の森」→
- 9月27日 里やま応援団ステップ
アップ講座「野ウサギとタヌキの生態と取るべき対応」講師:東京農工大学大学院斎藤昌幸氏
- 9月28日 第一回里山交流会(柏市・松戸市)里山活動がともに盛んである柏市・松戸市の市民団体が、交流を通じて理解を深め、相互の発展に寄与する事を目的に開催。
- 9月 渡りを前にしたサシバを3回確認、10月林内にツツトリの羽散確認(三吉の森自然観察日より)
- 10月15日 Save The Green「竹で飯ごう in 秋山の森」
- 10月16日 野菊野こども館「こどもの国 竹工房」に里やま仲間が協力
- 10月19日 「里やまボランティア入門講座」開講
- 10月23日 囲いやまの森で子ども
もっとまつどの体験教室
- 10月26日 八ヶ崎の森で保育園児
約40名受け入れ→
- 10月27日 ステップアップ講座
「小浜の森の会の活動報告」
- 10月31日 オープンフォレスト2017始動
- 11月4日 石みやの森で県生涯大学生受入れ、園児来森
- 11月5日 千葉大園芸学部戸定祭 ISO 学生委員会と共同出展。ネイチャークラフトとパネル展示
- 11月10日 石みやの森に園児47名 森の遊び体験
- 11月12日 Save The Green「もくもく燻製 in 秋山の森」
- 11月17日 東部小2年生111名秋山の森で校外学習
- 11月19日 ステップアップ講座「里やまの自然観察と富士山を眺める」



~しぜんのコラム 33~

ウラナミシジミ

毎年秋になると松戸に現れるウラナミシジミ。翅の表はヤマトシジミやツバメシジミに似ているが、少し大きめで、「裏波シジミ」の名の如く、翅の裏に波形の模様がある。



ウラナミシジミ 2016.10.2 関さんの森

ウラナミシジミのチャームポイントは尾状突起で、これは頭部のふりをした擬態。尾状突起は触角、基部の黒い模様は眼に似せてる。ウラナミシジミを食べようとした小鳥は、偽りの頭部をパクリ。しかし、ウラナミシジミとしては翅を破られただけですむから、命に別状なし。生物の形や色には、何らかの目的がある。きっと裏波模様にも、何らかの目的があるに違いない。

ところで、ウラナミシジミは南方系のチョウで、県内で越冬できるのは房総半島南部の館山市付近のみ。多化性(年に6回程度世代を繰り返す)で、春に館山からスタートしたウラナミシジミは、少しずつ北上しながら世代を繰り返し、10月頃になってやっと松戸までたどりつくというわけである。

しかし、やがて訪れる冬を乗り切ることができずにすべて死滅し、翌年はまた館山からスタート。一見すると無駄なことをやっているようだが、たえず分布域を広げる努力をしているからこそ、命をつなぐことができるのである。

(山田純稔)

★松戸のみどり再発見ツアー40(観察学習会55)

「石みやの森から紅葉の八柱霊園を歩き、みどりの再発見」

野うさぎが遊ぶ紙敷石みやの森と、開設以来80年、貴重な緑の宝庫となった広大な公園墓地を訪れ、身近なみどりの大切さについて考えます。

12月4日(日) 9:30~14:00(雨天中止)
集合 JR東松戸駅改札口 9:30(八柱霊園にて解散)
問い合わせ 090-2935-9444(高橋)

参加費 300円(会員100円)
持ち物 飲み物、弁当
その他 温かく歩きやすい服装でどうぞ